



## 私の自然観察ノート 花外蜜腺をよく訪れるアリ

ゆきなりまさあき  
行成正昭 (友の会会長)

植物は、光合成によって葉で作ったもの(同化産物)である澱粉を、体内での移動の際に糖に変化させる。その糖を濃縮したものが蜜である。とくに花蜜は、高濃度の糖分を含んでおり、多くの昆虫のエネルギー源として利用される。受粉は、植物の繁殖にとって通過しなければならない重要な関門であるが、被子植物にとって重要な役目を担っているのが昆虫達である。植物は、昆虫達に花粉を運んでもらうための報酬、見返りとして花蜜を分泌しているのだ。昆虫に送粉者として働いてもらうには、花の中に蜜を分泌するのが都合良いに違いない。蜜腺を花の中に置き、多様な形態、習性をもつ昆虫との掛かり合いを通して、様々な変化に富んだ色、形、機能、構造をもった花へと進化したといわれる。植物の多種多様な花を眺めていると、ハナバチをはじめ、送粉者をいかにして招き、その役目を果たしてもらうか工夫した植物の知恵がうかがえ、植物と送粉者との共進化の歴史に感動さえ覚える。花部にある蜜腺は、花内蜜腺と呼ばれ、これが存在する場所は植物の種毎におよそ決まっており様々である。

さて、昆虫類の中でもアリは大きなグループで、しかも社会生活を営み繁栄を極め、陸上生態系の中で重要な構成要素となっている。膜翅目昆虫のハチ類が多くの花に集まる習性を有するのに、同じ仲間のアリの中で花にやって来るのはごく一部のアリで、個体数も少ない。花にはハチ類のほかにも、ハナアブ、ヒラタアブ、ハエ類、ハナムグリ、ハナカマキリ、チョウなどが引っぱり無しに訪れる。ところが、糖分の含まれているものに目が利き、それを大変好み、よく集まるのに、蜜腺のある花に余り集

まらないのは実に不思議である。植物側からみると、一般にアリは生殖器の花にとって、葯にも柱頭にも触れずに蜜だけを採取していくとされる厄介者で、花蜜にアリを招いても送粉してもらうという本来の目的は果たしてもらえない。ニシキソウやウツボグサのようにアリを旨く受粉に利用している花も知られるが、植物の中にはアリの問題を解決するため、粘着物質やその他の手段でアリの盗蜜や侵入を防いでいるものさえ見られる。このように普通アリは、送粉者として機能することは稀で、一方的に花蜜を搾取するのである。

しかし、植物が分泌する蜜は、花蜜にとまらない。花以外の部分から蜜を分泌する器官は花外蜜腺と呼ばれ、そこから花外蜜が分泌される。花外蜜腺は、68以上もの植物の科で見られ、恐らく何度も独立に進化したものと考えられている。例えばアカメガシワ(トウダイグサ科)は、伐採地、崩壊地、丘とか谷の付近の林など至る所に生え、新葉が特に鮮やかな赤い色をした落葉高木で、これの花外蜜腺は、葉の表面の基部に存在している。日本人に人気の高いサクラ類(バラ科)では、サクラの種類によって少しずつ違っているものの、葉柄の上端に見られ、小さな盃状をしており観察し易い。同じバラ科のバ



アカメガシワの花外蜜腺に群がるアリ

クチノキは、葉柄上部に見られる。街路樹として、また公園などにもよく植栽されている、紅葉の美しい中国原産の落葉高木ナンキンハゼ（トウダイグサ科）では、葉柄の先に2個見られる。ニワウルシ（ニガキ科）、別名シンジュ（神樹）も中国原産の落葉高木で、葉は大きな羽状複葉をなしているが、その小葉に1～2個の大きな鋸歯があり、その裏側に比較的大きな蜜腺がある。マメ科植物のソラマメやカラスノエンドウでは、托葉の裏面に存在する。このように花外蜜腺のある位置は、種によって少しずつ異なるが、一般的には植物体の地上部にあり、しかも植物が守ろうとする部分とか、その近くに存在することが多い。花外蜜腺にも、主要な栄養素として糖分他アミノ酸、微量栄養素が含まれている。この花外蜜腺も植物が光合成によって生産したものであるから、これにかかったコストに見合う何らかの見返りがある筈である。アカメガシワの花外蜜腺を眺めていると、クロオオアリ、クロヤマアリ、シリアゲアリ、アミメアリ、トビイロケアリ、ルリアリ、アメイロアリなど種々のアリが入れ替わり立ち替わり訪れるのを観察できる。また、サクラの葉柄にある蜜腺から出る蜜にも、たまに寄生蜂がやって来るのを見るが、やはりアリが主で、これにやって来て舐めまわす。蜜腺の所在を知るには、葉上やその付近で動き回るアリがいたらその行動に注意し、アリが静止する箇所を注視すればよい。このように花外蜜腺を最も頻繁に利用しているのがアリであることは疑いないようで、眺めていると植物側の魂胆—受粉効果が期待できないアリには花に来て欲しくないから花外蜜腺に誘う—が感じられ、誠に興味深い。



カラスノエンドウの托葉にある蜜腺を訪れたアリ

ところで、どの植物にもそれを摂食する多くの第一次消費者としての昆虫が存在する。そこで花外蜜腺を持つ植物は、これにアリを招き、その植物を加害する食植性昆虫を駆除、抑制してもらっているのではないかと考えることもできる。すなわち、植物の防衛手段の一つではないかと見るのである。事実、花外蜜腺に通う過程で植物体上の食植性昆虫を発見し、それを攻撃するか捕食することが期待される昆虫として、強力な捕食者であるアリ類があげられる。

それでは、花外蜜を分泌する植物とアリとの関係は、相利共生が常に成り立っているのだろうか。先に述べたアカメガシワの花外蜜腺には、種々のアリが訪れるが、種特異的な関係をもったアリが訪れるのではなく、不特定のアリがやって来る。これらの中には捕食性の強い種も含まれるが、相利共生が成り立つためには食植性昆虫を撃退あるいは捕食するアリの比率が高くないとしないし、アリの訪問と食植性昆虫の存在が同調していることも重要である。様々な条件が揃ってはじめて、植物はアリから見返りを受けることができるようで、花外蜜腺を持っているからといって、いつでもアリとの相利共生が成立しているとは考えにくい。サクラでもアリが花外蜜腺を舐めに来るのをよく見るが、果たしてどれだけ食植性昆虫を抑制しているかは疑問である。というのもサクラの葉を加害する食植性昆虫は、ハバチ類、エダシャク類、シャチホコ類、キリガ類、その他イラガ、ドクガ、ヒトリガ、カレハガ、マダラガの仲間など極めて多種が存在し、毎年それらによって暴食されるからである。それらに対してアリの有効性は証明されておらず、むしろ野鳥の捕食効果がずっと大きいものとみられる。

カラスノエンドウやソラマメは、托葉にある花外蜜腺から蜜を分泌し、アリを呼んで食植性昆虫から身を守っていると考えられる。しかし、これらのマメ科植物にはアブラムシ（アリマキとも呼ばれる）の仲間がよく付き、彼女らは汁をどんどん吸って余分な糖分などの残りを甘露として排出孔から出してアリを誘い、用心棒としている。植物とアブラムシといった本来敵同士の両者が、同じようにアリを招き自分を守ってもらおうとすると、どう

ということになるのか。どちらに転ぶかはアリに対する魅力次第であるから、植物とアブラムシはアリとの共生を巡って熾烈な競争をしているという見方もできる。いずれにしても花外蜜腺の生い立ち、生態的意義に関しては、今のところ確かなことは明らかになっていないようだが、大変興味深いテーマではある。

## 「賢者は歴史を学ぶ」 ～友の会の幹事に就任して～ 本田壮一（友の会役員）

2018年4月22日（日曜）に開催された友の会<sup>1)</sup>にて、同会の幹事に推薦頂いた（図1）。副会長の杉洋子さんやの監査の石尾和仁さんとは、ご講演を拝聴したり、著書を頂いたりし親交がある。また、何度か普及行事や友の会のバス研修旅行に参加したことがあり、学芸員の長谷川賢二<sup>2)</sup>、中尾賢一の両氏にはお世話になっている。

私は海部郡美波町の生まれ<sup>3)</sup>で、小学生では「〇年の科学」、中学生では“Science Echo”という月刊雑誌を愛読していた（学習研究社）。由岐小学校の徳島市への遠足では、眉山に登り、そのふもとにある旧博物館に訪れ、たくさんのパチンコ玉をくっつける磁石の展示を見たことを覚えている。由岐中学には、アマチュア無線部（JA5YFH）があり、中学1年で電話級の免許をとり、JA5IVIのコールサインを取得した。3.5MHz、7MHzなどの周波数帯で、日本国内だけでなく、海外（overseas）と交信するの



図1：長谷川さんと（県立博物館、2018年4月）

を楽しんでいた。高校は理数科（阿南市の富岡西高校）に進み、綜合理科として、地学や生物学・物理学・化学を学んだ。さらに徳島大学医学部に進学し、当初は準硬式野球部、後に外国語研究会（Foreign Language Society）で活動した。下宿が徳島市で、東新町の旧丸新デパートとともに、眉山下の旧博物館を再訪した記憶がある。卒業後は、内科医局に入局し、内分泌腫瘍や高尿酸血症の診療や研究に従事した。関連病院・研究施設では、徳島県内だけでなく高松市民病院（香川県）や国立がん研究センター（東京都中央区）に勤務した。そして、美波病院（前身の由岐病院を含め）に14年目の勤務となっている。当院は、2016年3月に、津波災害に備え高台に新築された病院である（図2）。

地域医療は人出不足が続き、病院から離れられる時間が限られている。しかし、「愚者は経験に学び、賢者は歴史を学ぶ」の言葉どおり、徳島の歴史を学ぶ「モラエス例会・読書会」（徳島大学）などにも参加している<sup>4)</sup>。徳島県南部の地域医療では、高齢者医療や人口減、津波などへの災害対策が重要となっている。次世代への医学教育<sup>5)</sup>も重要で、母校の医学部5年生の地域医療実習を受け持っている。病院内の診療だけでなく、美波町の漁業の歴史、津波災害、隣の阿南市新野で最初に発見されたマダニ感染症（日本紅斑熱）などを紹介している。県立博物館の展示を参考に、地域の歴史を正確に伝えたいと考えている。

また、研究会や学会などで、県外の大学を訪問することがある。東京大学や、京都大学、明治大学（刑法の展示が興味深い）、愛媛大学などは、大学附属



図2：美波病院

の博物館を持っており、土曜・日曜も開館している。徳島大学（蔵本キャンパス）にも、平成 25 年 11 月に開設された藤井節郎記念医科学センターにギャラリー<sup>6)</sup>がある。観覧を勧めたいが、平日のみの開館である。藤井節郎博士は、昭和 37 年から 51 年まで徳島大学医学部酵素生理学部門の教授を務められ、癌（UFT）、肺炎（FOY、フオイパン、フサン）、胃炎（ノイエル）などの治療薬を発明・開発され、大学のみならず社会にも大きく貢献された。

5 月 13 日（日曜）には、県立博物館リニューアルのワークショップに参加した。あすたむらんど（板野町）に科学部門が置かれ、文化の森では、歴史や自然、人文の展示が主となっている。にぎわっている「北九州市立いのちのたび博物館」（福岡県）の様子も教えていただいた。博物館のある八万町向寺山は徳島市中心部より離れているが、県外の観光客などにも、「徳島の歴史を学ぶ」魅力のある施設になるように応援したい。

- 1) 徳島県立博物館友の会：<http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/tomo/tomo.htm>
- 2) 時枝務、長谷川賢二、他：修験道史入門。岩田書院（東京都）,2015 年 9 月
- 3) 本田：地域で働く医師の現状と提言。四国医学雑誌，第 68 巻，第 5・6 号，p183-190，平成 24 年 12 月
- 4) 本田：徳島城址とモラエス。「モラエス顕彰による地方創生プロジェクト論集」第 2 号，p73-76,2016
- 5) 本田：縄文と幕末に思いをはせて（美波町由岐）。アワーミュージアム，46 号，2011 年 6 月 30 日
- 6) 藤井節郎記念医科学センター：<http://www.fujii.tokushima-u.ac.jp/about/>

## 友の会行事報告

### 大阪日帰りバスツアー

- 日 時 2 月 4 日（日） 7:20 ～ 17:45
- 場 所 国立民族学博物館（大阪府吹田市）、  
いましろ大王の杜（大阪府高槻市）など
- 担 当 とりい たかし 鳥居 喬（友の会会長）  
うえぢ たけひこ 植地岳彦（博物館学芸員）  
おかもと はるよ 岡本治代（博物館学芸員）  
さかべ きみあき 坂部公章（博物館係長）
- 参加者 29 名

貸切バスで大阪府にある「国立民族学博物館（通称みんぱく）」と「いましろ大王の杜」を中心に見学しました。みんぱくでは、1 万 2 千点を誇る世界中の展示資料が圧倒的迫力で私たちを出迎え、本当に世界一周をした気になりました。いましろ大王の杜では、古代歴史館と今城塚古墳公園を見学しましたが、史跡が古墳公園としてきれいに整備され、市民の憩いの場となっていることに感動を覚えました。その他「史跡新池ハニワ工場公園」を見学したり、周辺の遺跡や古墳の説明を聞いたりして充実した 1 日を過ごすことができました。（坂部公章）



今城塚古墳公園にて

### Voicé 参加者の声

● もり としひろ 森 敏博さん

民博はさすがに広い、疲れます。時代によって、住む場所により世界の人々の暮らしぶりはずい分違うことがよく分かりました。2 時間はすぐ過ぎてしまいました。今城塚歴史館、古墳と言えば奈良、堺などに目を奪われて、高槻にこれ程の巨大なものを作った人がいたことに気づきませんでした。感激しました。今回、大いに勉強になりました。

● かわはら きよみ 川原喜代美さん

バスの車窓から、南あわじ市、淡路市、神戸市などにある古墳についてのお話があり、歴史や遺跡、徳島とのつながりに興味・関心が深まりました。

国立民族学博物館やいましろ大王の杜にはじめて行くことができたので、今回来ることができなかつた家族や友だちに伝えて広めようと思いました。お土産も GET でき、お留守番していたこどもが、ハニワのクッキーに大喜びしていました。友の会の

行事に参加ができ、大変たのしかったです。

●原 大翔さん はら ひろと

みんなばくで、世界のくらしを知ることができてたのしかったし、ビデオテークなどでよりくわしく知れてよかった。つぎにいきたいところはニフレルです。

●菊谷富男さん きくたにとみ お

今回、3人で参加しました。すべて良かったですね。担当の方のバス内でのご案内も、史跡の説明も、バスの運行も。ご配りよ感謝いたします。見学場所も、3か所もあって、密度の高い見学となりましたヨ！  
ありがとうございました。

●山地武彦さん やま ち たけひこ

出発進行、空は真っ暗、雲がパラパラ。千里の民博館到着。御天道さんキラキラ、風は一寸だけ冷たい。誰かの後についていったら、四国遍路の逆打よろしく、出口から入場。見覚えあり。竹の先に飾った帆立貝。平成13年、20周年記念展「聖地巡礼」のサンチャゴ・デ・コンポステラの帆立貝。ここには聖なる場所の金縁メダルがワンサカ。次、アレヤコレヤ見た。次。平成15年企画展「アイヌ工芸展」で見た民芸品多数。勿論、土産はアイヌの人が書いた動物の絵葉書。ア、隣のオバチャン、林檎とアメチャン、アリガトウ。

友の会行事報告

ナイト・ミュージアム ツアー

○期 日 3月3日(土) 18:00～19:45

○場 所 徳島県立博物館

○担 当 もり としひろ 森 敏博 (友の会役員)  
なか おけんいち 中尾賢一 (博物館学芸員)  
おかもとほる よ 岡本治代 (博物館学芸員)  
さか べ きみあき 坂部公章 (博物館係長)

○参加者 21名

閉館後の博物館を、探検気分で見学しました。バツ

クヤードでは、くん蒸室や冷凍室、石工室など普段入ることのできない施設や貴重な資料を間近で見ました。特に地学収蔵庫においては、暗闇の中、紫外線ライトで鉱物などが幻想的な光を放つ様子が観察でき、とても感動しました。その後、照明の消えた夜の展示室内を歩きましたが、懐中電灯の光にふいに浮かび上がる恐竜の骨格や頭蓋骨の標本、人形頭などには、一瞬声を上げそうになりました。みなさん家族での参加でしたが、とてもいい思い出になったと思いました。(坂部公章)



真っ暗な常設展示室の中を歩いています

Voicé 参加者の声

●谷川奈緒子さん たにがわ なおこ

昼間のいつもと違う博物館を、子どもといっしょにワクワク楽しむことができました。ふだん見ることのできないバックヤードツアーもすごく楽しかったです。ありがとうございました。気軽に子どもといっしょに参加できる行事があれば、またぜひ参加したいです。

●谷川陽斗さん たにがわ はると

夜のはくぶつかんは、ちょっとこわかったのでキドキしました。その中でも、がいこつはなんかいきかえりそうだったので、一番こわかったです。れいとうしつはさむかったけどすずしかったです。もうどいきたいです。

●有井紀文さん あり い のりふみ

前から興味があり、普及行事にあった際には抽選

で外れていましたが、今回は友の会の行事ということで、やっと参加できました。非常灯があるため、本当の真っ暗ではないものの、暗がりの恐竜や大きい生物は、日中とは違う迫力がありました。普段は入れないバックヤードも見ることができて、今更ながら裏方仕事の大変さに思い至りました。今後は展示を見る目が少し変わりそうです。お世話になった皆様、貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。

● T. A. さん

「夜の博物館」という響きはとても魅力的に感じますが、暗がりの中で見る展示物はとても見づらく、新鮮みに欠けました。それよりも、燻蒸室、展示物の保管庫など、博物館の裏側を見ることができたことは、とても貴重で面白かったです。某テレビ番組に習い、「県立博物館ウラガワンダーランド」という企画を作り、日中に博物館の裏側を知るツアーがあると面白いなと思いました。職員の皆さんがやっている仕事、実はよく知りません。年間通しての仕事、展示セットの苦労話や、どんなことにやりがいを感じているか、どんなルートや方法で展示物を交渉しているのか。HPには掲載されていますが、どんな部署があり、専門の職員はどんな人達がいて、館長さんのコメントなどもかいてあるチラシを作って配り、保管室や殺菌室の見学も併せて行くと、子供はより深く「博物館」を感じることができるのではないのでしょうか。寒い中、夜遅くまで一緒に回って頂いた先生や職員の皆様、ありがとうございました。

● ありいともき 有井智紀さん

この行事に参加して感じたことは、同じものを博物館においていても昼と夜ではぜんぜんふんいきがちがうということです。また、ふだんみることのできないうら側までみられたのでよかったです。またおもしろそうなものがあれば参加したいです。

● はら ひろと 原 大翔さん

はく物かんのうらがわを知れてよかった。ふだん

は見られないところが見られたのと、よるのはく物かんがたのしかった。

友の会行事報告

化石を探そう

- 日時 5月27日(日) 11:00～15:00
- 場所 兵庫県南あわじ市
- 担当 なかむら ゆか 中村由香 (友の会役員)  
つじの やすゆき 辻野泰之 (博物館学芸員)  
なか おけんいち 中尾賢一 (博物館学芸員)  
さか べきみあき 坂部公章 (博物館係長)

- 参加者 22名

南あわじ市の海岸に行きました。天候にも恵まれ、岩石に入っている化石を、ハンマーで叩きながら探しました。昼食を挟んで、上級者向けと初級者向けの2つのポイントで実施しました。貝や植物、エビやアンモナイトなど大小様々な化石が見つかりまし



参加者の皆さん



ゴードリセラスを見つけた♪

た。中でも今回の目玉は、全国でも希少なゴードリセラス科のアンモナイトが見つかったことです。そのときは参加者全員から歓声と感嘆の声があがっていましたよ。  
(坂部公章)

## Voic<sup>e</sup> 参加者の声

### ●後藤一樹さん

今回の化石をさがそうでは、後半いろんな化石がでてきて楽しかったです。二まい貝や甲かく類の一部などがでてきました。とくにうれしかったのが、ハコエビです。アンモナイトもとりましたけど、エビがとれてとてもうれしかったです!! また行く機会があれば、二か所目の方でいっぱいはくつして、アンモナイトを見つけたいです。楽しかったです。

## 報告 平成30年度総会

平成30年度友の会総会は、4月22日(日)午後2時30分より博物館講座室にて開催しました。29年度の事業報告・決算報告並びに30年度の事業計画案・予算案について、また、役員改選とそれに関する会則の一部改訂(役員に顧問を新設)について、それぞれ審議した結果、すべて承認されました。

その後、2階部門展示室にて、大橋俊雄学芸員による部門展示「阿波の3大絵巻」の展示解説を行いました。

今年度は、友の会の行事を6回計画しています。ふるってご参加ください。

### 1. 平成30年度友の会行事

#### (1) 化石を探そう(終了)

実施日: 5月27日(日)

場 所: 兵庫県南あわじ市

#### (2) 兵庫日帰りバスツアー(終了)

実施日: 6月16日(土)

場 所: 須磨海浜水族園(神戸市)、野島断層保存館(兵庫県淡路市)

#### (3) ライトトラップで昆虫観察(終了)

実施日: 7月21日(土)

場 所: 佐那河内村大川原高原

#### (4) 拓本をとってみよう

実施日: 10月27日(土)

場 所: 徳島県立博物館

#### (5) 遺跡・古墳見学

実施日: 11月上旬

場 所: 徳島県内

#### (6) 淡路日帰りバスツアー

実施日: 3月上旬

場 所: 兵庫県洲本市など

実施日や場所については変更することがあります。会員の皆さまには月報等にて詳しくご案内させていただきますので、ご確認をよろしくお願いいたします。

### 2. 広報活動

(1) 博物館広報印刷物(月別催し物案内、企画展チラシ、博物館ニュース、文化の森から等)を提供します。

(2) 館内掲示板や展示ケース等を活用した活動状況の発信を行います。

### 3. 図録の販売

(1) 企画展図録「阿波漁民ものがたり」を販売します。

(2) 企画展図録「鳥居龍蔵と小金井良精(仮)」を販売します。

### 4. 友の会会報の発行・配布

会報「アワーミュージアム」No.62・63を発行・配布します。

### 5. 会員募集

(1) 博物館内に勧誘ポスターを掲示し、来館者には案内チラシを配布します。

(2) 博物館掲示板や展示ケース等を活用し、会員獲得に努めます。

### 6. 友の会グッズの販売

クリアファイル2種(ルイスハンミョウ、鶏蒔絵印籠)を販売します。

### 7. 平成30年度友の会役員

会 長: 行成正昭

副会長: 大杉洋子・徳野壽治・遠藤佳孝(館長)

幹 事: 森 敏博・幸坂敏行・本田壮一・結城孝典・坂井なつ

監 査: 石尾和仁・中村由香

顧 問: 鳥居 喬

事務局長: 長谷川賢二(副館長)

事務局員: 西川栄展(課長補佐)・坂部公章(係長)・中尾賢一(上席学芸員)・岡本治代(主任学芸員)

## 新スタッフ紹介

えんどうよしたか

●遠藤佳孝(博物館長)

皆さんこんにちは。私は、本年4月に、博物館館長に就任をいたしました遠藤と申します。どうぞよ

ろしくお願いいたします。

もともと徳島県の職員（一般行政職）です。私が担当する当館をはじめ文化の森の各施設は、私の子どもたちが小さい頃に一県民としてよく利用させていただきましたが、働くのは初めての経験です。まだ4ヶ月の短い期間ですが、赴任した感想を聞かれば、私にとって最高の職場であるといっても過言ではありません。

何よりも、自然が豊富です。よく整備された公園や園路、駐車場などからは、眉山や徳島市内が一望できます。天気の良い日には、淡路島も間近に見ることができます。四季折々に咲く草花もたくさんあります。私の好きなウォーキングには、まさに「打って付けの環境」です。

当館に入れば、徳島の自然や歴史、文化をよく知る学芸員の皆さんがいます。私も、県職員の一員として、これまで、徳島県のことをよく知り、その魅力をアピールし、少しでも県勢の発展や県民の皆さんの幸せのために貢献できればと考え、仕事に従事して参りました。しかし、ここへ来て改めて、自分が知らないことがまだまだたくさんあることを教えられました。

文化の森には、当館のほかにも、鳥居龍蔵記念博物館や図書館、近代美術館、文書館や21世紀館など、様々な異なる魅力と個性を有する館があります。つい先日には、野外劇場が全天候型の「すだちくん

森のシアター」として生まれ変わりました。県内外のイベント情報なども豊富です。

ぜひ多くの方々に、当館をはじめ、文化の森各館にお越しいただき、ご利用いただいて、その魅力を堪能していただければと思います。私も、微力ですが、一人でも多くの皆さまに、楽しくご利用いただけるよう取り組んで参ります。

とりわけ、友の会の皆さまには、今年度も、当館をあげて様々なイベントをご用意させていただいておりますので、ぜひ多くの皆さまにお声かけをいただき、お誘い合わせのうえで参加いただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

にしかわひでのぶ  
●西川栄展（企画担当課長補佐）

那賀郡那賀町相生小学校から、転任してまいりました。車で1時間かけて、県立博物館に通勤しています。

博物館や鳥居龍蔵記念博物館には遠足などで利用させていただき、子どもたちも大変勉強になりました。個人的にも、歴史や自然にいつそう興味をもつ機会になり、ライフワークとして、博物館めぐりをしようかなと考えていたところでした。

この機会に、友の会のスタッフとして、皆さまと楽しく学びながら一生懸命活動に貢献できるようがんばります。どうぞよろしくお願いいたします。



アワーミュージアム 第62号

2018年7月30日発行：徳島県立博物館友の会  
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内  
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197  
E-mail: mus-fukyu@mt.tokushima-ec.ed.jp